

手づくり航空ショー 無念の開催中止

角田・グライダー曲技飛行大会

阿武隈川河川敷にある角田滑空場(角田市)を会場に、二〇〇四年から毎年十月に開かれてきたグライダーによる曲技飛行大会「エアロパティックジャパンinかくた」が、資金難などから今年中止されることが決まった。曲技飛行などが売り物の全国的にも珍しいイベントだが、大会に関係する事故が重なり主催者の間に自粛ムードが広がったことも影響した。

市商工会青年部などが、多彩な技を披露する。毎回四百万円以上を要す中心になり設立した市民イベントで、市民手づくりの団体「スカイネット角田」の航空ショーとして知られる。一方、収入は地元企業が着陸直後に脱落するト

金制度が見当たらず、収入が大きく減る見通しとなった。昨年から協力金という形で有料化した会場の駐車料金も、収支を大きく改善するまでには至らなかったという。角田滑空場では五月、グライダーのえい航に利用する小型飛行機の主脚

補助見込めず資金難

協力団体死亡事故も影響

と、県航空協会などグライダー愛好者が協力し、名度を高めてきたところ。中止の大きな理由が資金難。国内外から招くパイロットの費用や機体のレンタル料などで経費は、給が受けられそうな補助金も、今年からは支内で墜落し、学生が死亡した。相次ぐ事故により、

開催中止の流れが決定的になったという。大会実行委員長の佐藤忠義さん(四五)は「不安定な要素が多すぎる。資金の問題などをクリアし、来年以降に仕切り直したい」と話す。

秋、市民向けのグライダー体験飛行会などの開催を検討しているという。



2005年の第2回大会。迫力あるフライトが間近で見られると人気だった